

2023 年度後期
「授業改善のための学生アンケート」 結果報告書

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

目 次

1. 2023 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要	
① 目的	1
② 実施概要	1
③ 実施方法	1
④ 設問の内容	2
⑤ 実施科目数	3
2. 2023 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果	
① 学部	4
② 大学院	9
3. 2023 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて	
① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ	14
② FD・SD 推進委員会からのメッセージ	16
4. 2023 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 顕彰授業	
① 顕彰授業	17
② 顕彰授業における工夫	18

1. 2023 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的

- 1) さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- 2) 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- 3) 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- 4) 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- 5) 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

② 実施概要

実施期間：2024 年 1 月 10 日（水）～1 月 31 日（水）

実施対象：原則としてすべての後期・通年少人数科目

（少数人数科目とは、原則として履修者が 25 名以下の科目をいう。ただし授業形態や、学科・センターの指定により、対象科目を増減する場合があります。）

調査方式：CampusSquare（Web） 自由記述欄あり（p.3 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約 10 分

③ 実施方法

- 1) 授業終了の10分前を目安に、履修学生にアンケート回答時間を設ける。回答は原則として授業時間内に行う。
- 2) 授業担当教員は、学生に対し実施目的をよく読み、回答を行うように指示する。
- 3) 回答が完了しない学生が生じた場合は、実施期間中の任意の時間に、回答を行うように指示する。

④ 設問の内容

設問と回答選択肢は以下の通り。

- Q1 (大学院科目対象外) あなたは授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。
I. 週2時間以上 II. 週1~2時間 III. 週30分~1時間 IV. 週0分~30分 V. 全くしていない
- Q2 この授業の進度は適切でしたか。
I. 速すぎる II. やや速い III. ちょうどよい IV. やや遅い V. 遅すぎる
- Q3 この授業の難易度は適切でしたか。
I. 難しすぎる II. やや難しい III. ちょうどよい IV. やや易しい V. 易しすぎる
- Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。
I. 多すぎる II. やや多い III. ちょうどよい IV. やや少ない V. 少なすぎる
- Q5 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q6 教員の説明はわかりやすかった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q7 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q10 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q11 この授業の学びの環境(教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料)は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない

- Q12 この授業の内容はシラバスに沿っていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q17 この授業を履修したことに満足している。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q18 この授業について、良かった点を、自由に記述してください。(自由記述)
- Q19 この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。(自由記述)
- Q20 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることなどを、自由に記述してください。(自由記述)
- Q21 (教員より指示があった場合のみ回答) ※教員個別設定質問 (自由記述)
- Q22 この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だ。
Ⅰ. はい Ⅱ. いいえ
- Q23 (Q22で「いいえ」と答えた人のみ回答) 欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。(自由記述)

⑤ 実施科目数

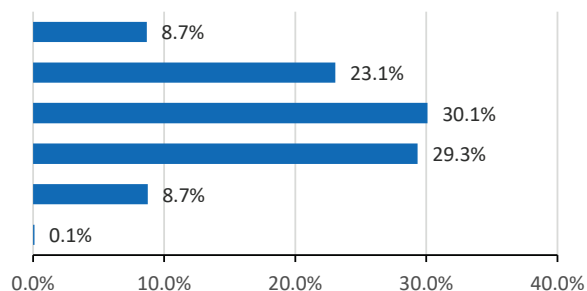
452 科目 (学部 : 426、大学院 : 26)

2. 2023年度後期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

① 学部

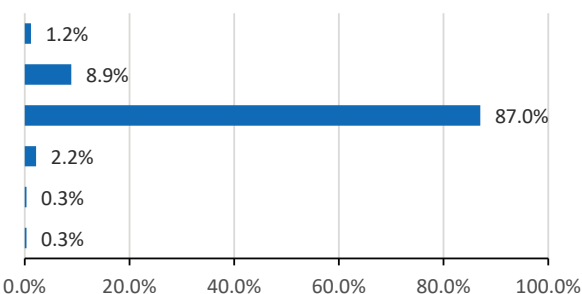
Q1 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	253	8.7%
2	週1～2時間	673	23.1%
3	週30分～1時間	878	30.1%
4	週0分～30分	856	29.3%
5	全くしていない	255	8.7%
6	非該当	3	0.1%
	合計	2,918	



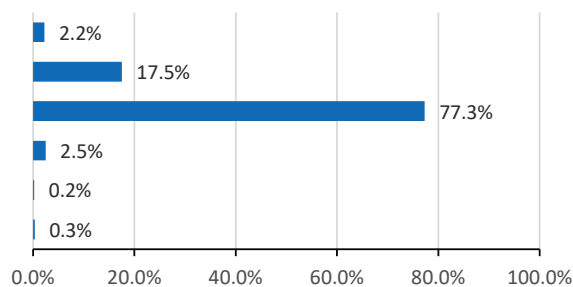
Q2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	35	1.2%
2	やや速い	260	8.9%
3	ちょうどよい	2,539	87.0%
4	やや速い遅い	64	2.2%
5	遅すぎる	10	0.3%
6	非該当	10	0.3%
	合計	2,918	



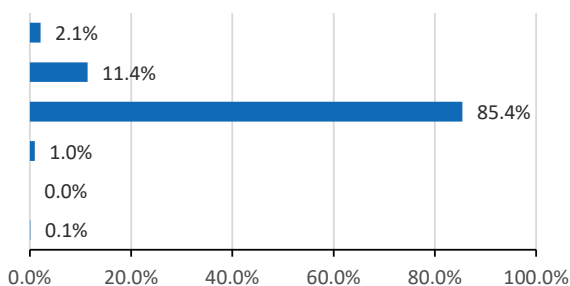
Q3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	65	2.2%
2	やや難しい	511	17.5%
3	ちょうどよい	2,255	77.3%
4	やや易しい	72	2.5%
5	易しすぎる	6	0.2%
6	非該当	9	0.3%
	合計	2,918	



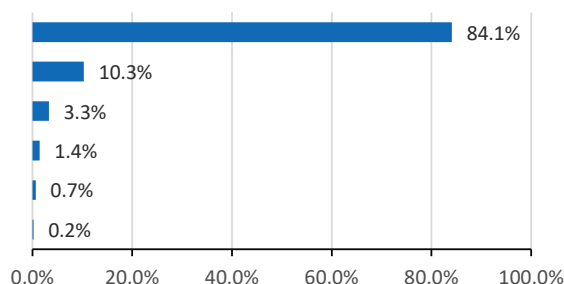
Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	61	2.1%
2	やや多い	332	11.4%
3	ちょうどよい	2,493	85.4%
4	やや多い少ない	29	1.0%
5	少なすぎる	0	0.0%
6	非該当	3	0.1%
	合計	2,918	



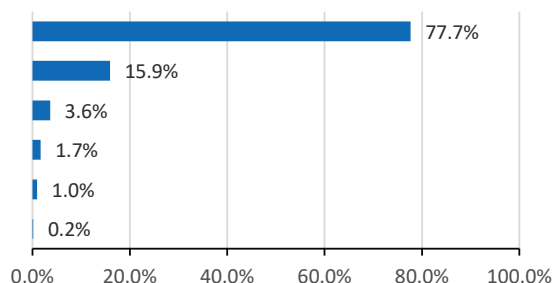
Q5 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,454	84.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	301	10.3%
3	どちらとも言えない	96	3.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	42	1.4%
5	あてはまらない	19	0.7%
6	非該当	6	0.2%
	合計	2,918	



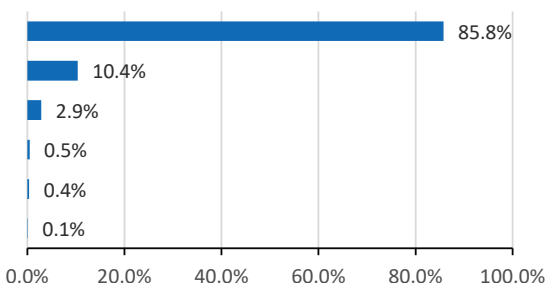
Q6 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,266	77.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	464	15.9%
3	どちらとも言えない	106	3.6%
4	どちらかと言えばあてはまらない	49	1.7%
5	あてはまらない	28	1.0%
6	非該当	5	0.2%
	合計	2,918	



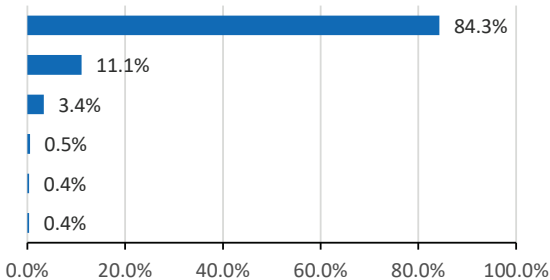
Q7 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,503	85.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	303	10.4%
3	どちらとも言えない	84	2.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	14	0.5%
5	あてはまらない	11	0.4%
6	非該当	3	0.1%
	合計	2,918	



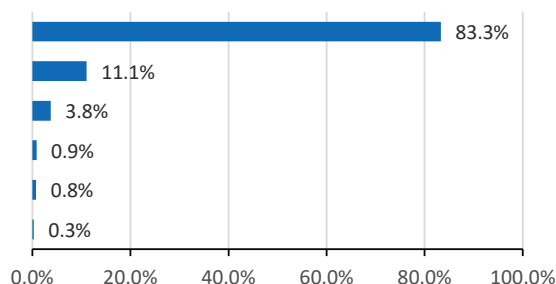
Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,460	84.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	323	11.1%
3	どちらとも言えない	98	3.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	15	0.5%
5	あてはまらない	11	0.4%
6	非該当	11	0.4%
	合計	2,918	



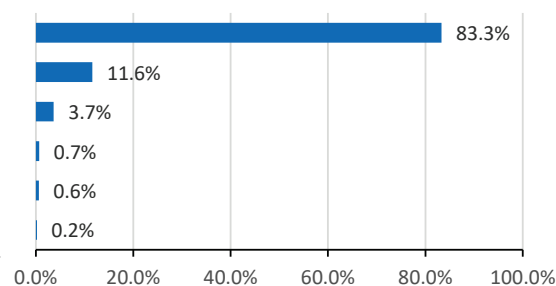
Q 9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,430	83.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	323	11.1%
3	どちらとも言えない	110	3.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	25	0.9%
5	あてはまらない	22	0.8%
6	非該当	8	0.3%
	合計	2,918	



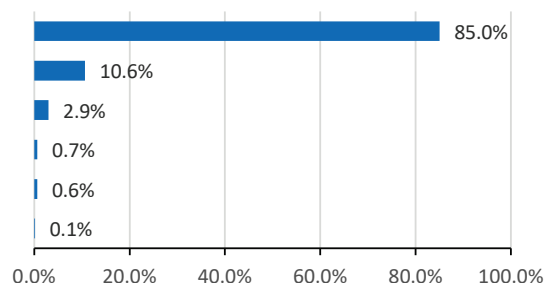
Q 10 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,431	83.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	338	11.6%
3	どちらとも言えない	107	3.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	19	0.7%
5	あてはまらない	17	0.6%
6	非該当	6	0.2%
	合計	2,918	



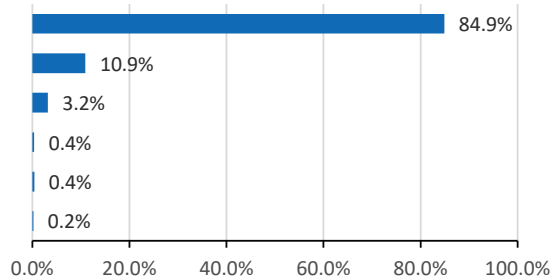
Q 11 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,481	85.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	310	10.6%
3	どちらとも言えない	86	2.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	19	0.7%
5	あてはまらない	18	0.6%
6	非該当	4	0.1%
	合計	2,918	



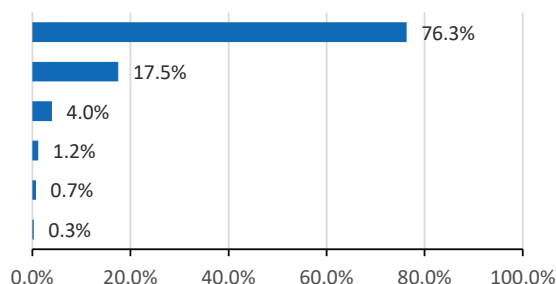
Q 12 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,477	84.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	319	10.9%
3	どちらとも言えない	93	3.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	11	0.4%
5	あてはまらない	12	0.4%
6	非該当	6	0.2%
	合計	2,918	



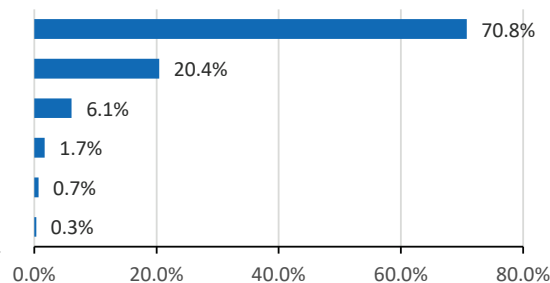
Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,227	76.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	511	17.5%
3	どちらとも言えない	116	4.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	35	1.2%
5	あてはまらない	21	0.7%
6	非該当	8	0.3%
	合計	2,918	



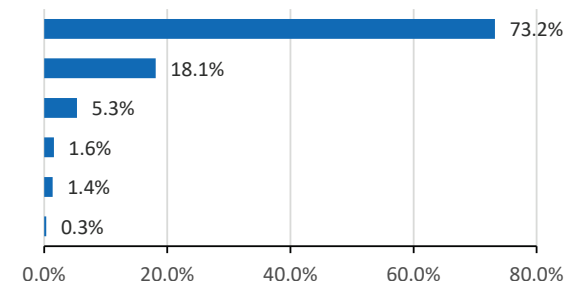
Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,065	70.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	596	20.4%
3	どちらとも言えない	178	6.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	50	1.7%
5	あてはまらない	20	0.7%
6	非該当	9	0.3%
	合計	2,918	



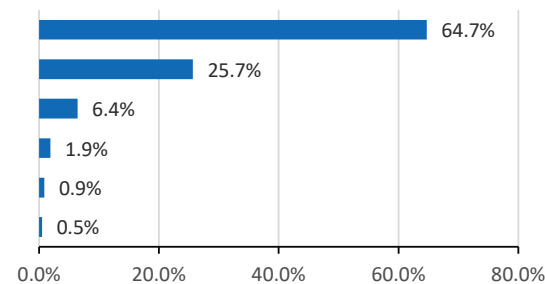
Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,137	73.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	529	18.1%
3	どちらとも言えない	156	5.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	46	1.6%
5	あてはまらない	40	1.4%
6	非該当	10	0.3%
	合計	2,918	



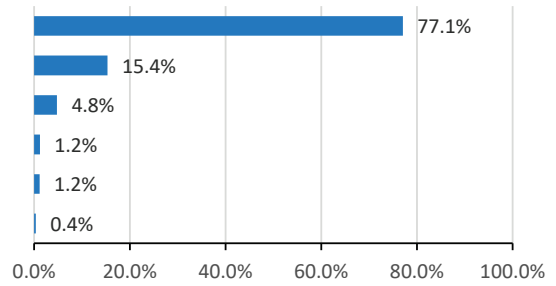
Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,888	64.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	749	25.7%
3	どちらとも言えない	187	6.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	55	1.9%
5	あてはまらない	25	0.9%
6	非該当	14	0.5%
	合計	2,918	



Q17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,249	77.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	448	15.4%
3	どちらとも言えない	140	4.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	36	1.2%
5	あてはまらない	34	1.2%
6	非該当	11	0.4%
	合計	2,918	



2. 2023年度後期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

②大学院

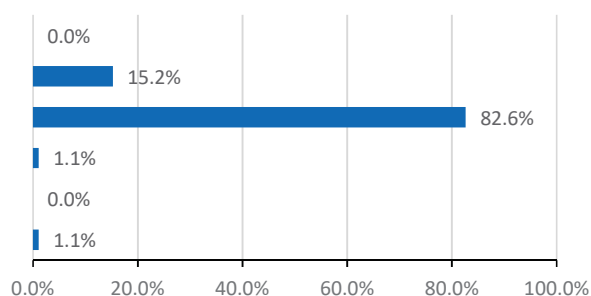
Q1 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	0	
2	週1～2時間	0	
3	週30分～1時間	0	
4	週0分～30分	0	
5	全くしていない	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

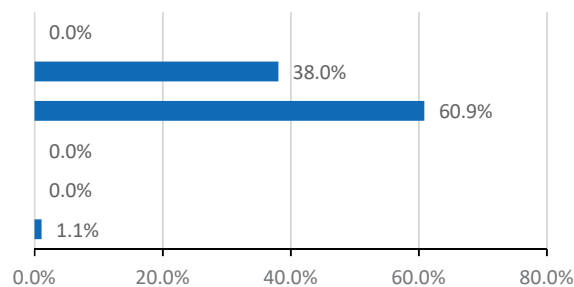
Q2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	0	0.0%
2	やや速い	14	15.2%
3	ちょうどよい	76	82.6%
4	やや速い遅い	1	1.1%
5	遅すぎる	0	0.0%
6	非該当	1	1.1%
	合計	92	



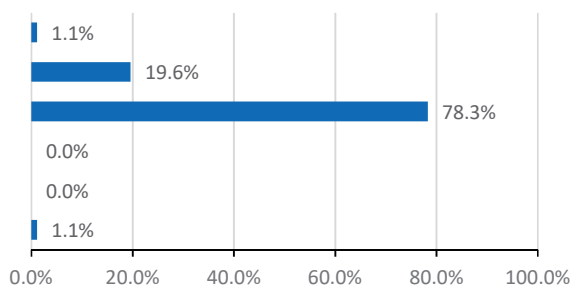
Q3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	0	0.0%
2	やや難しい	35	38.0%
3	ちょうどよい	56	60.9%
4	やや易しい	0	0.0%
5	易しすぎる	0	0.0%
6	非該当	1	1.1%
	合計	92	



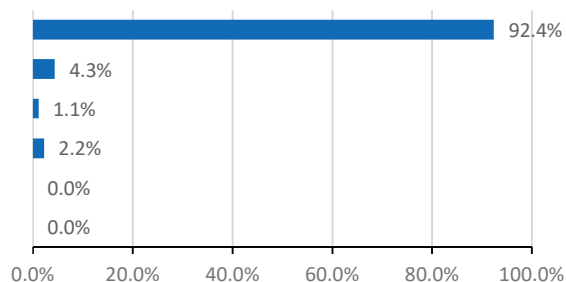
Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	1	1.1%
2	やや多い	18	19.6%
3	ちょうどよい	72	78.3%
4	やや多い少ない	0	0.0%
5	少なすぎる	0	0.0%
6	非該当	1	1.1%
	合計	92	



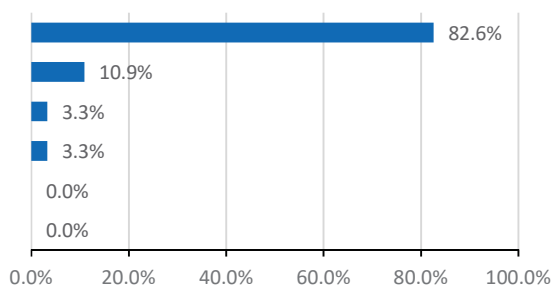
Q5 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	85	92.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	4	4.3%
3	どちらとも言えない	1	1.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	2.2%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



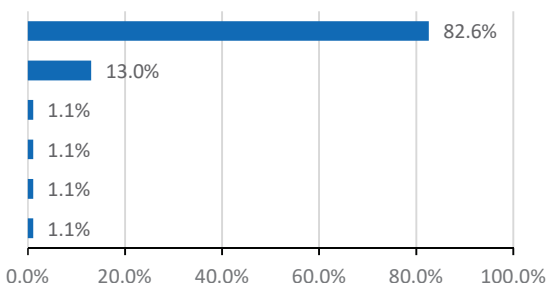
Q6 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	76	82.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	10	10.9%
3	どちらとも言えない	3	3.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	3	3.3%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



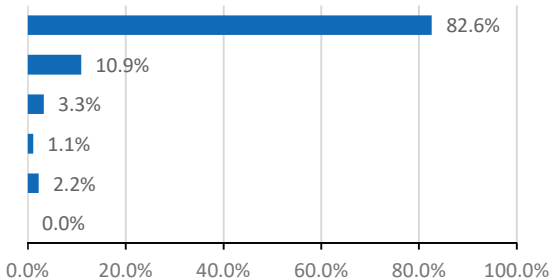
Q7 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	76	82.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	12	13.0%
3	どちらとも言えない	1	1.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	1.1%
5	あてはまらない	1	1.1%
6	非該当	1	1.1%
	合計	92	



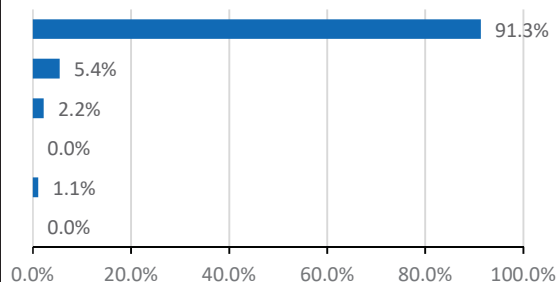
Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	76	82.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	10	10.9%
3	どちらとも言えない	3	3.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	1.1%
5	あてはまらない	2	2.2%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



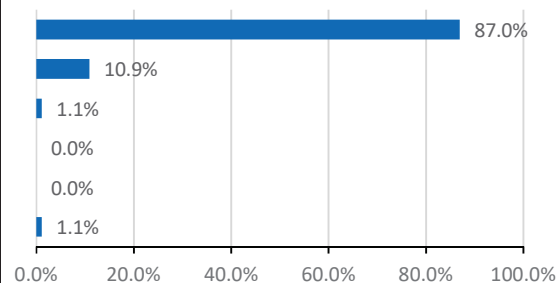
Q 9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	84	91.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	5	5.4%
3	どちらとも言えない	2	2.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	1	1.1%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



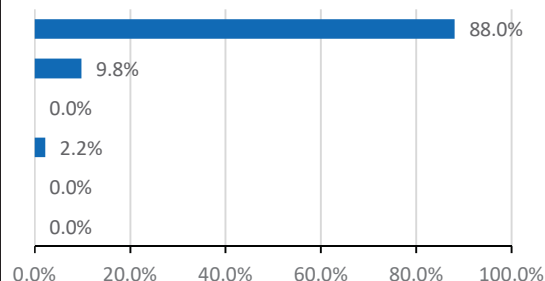
Q 10 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	80	87.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	10	10.9%
3	どちらとも言えない	1	1.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	1	1.1%
	合計	92	



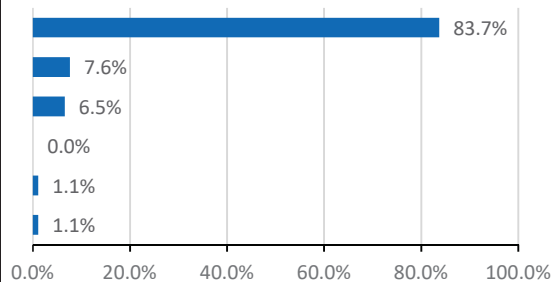
Q 11 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	81	88.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	9	9.8%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	2.2%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



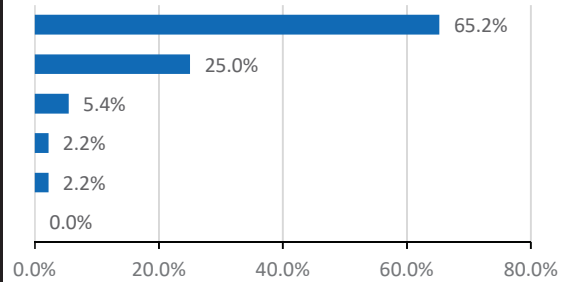
Q 12 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	77	83.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	7	7.6%
3	どちらとも言えない	6	6.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	1	1.1%
6	非該当	1	1.1%
	合計	92	



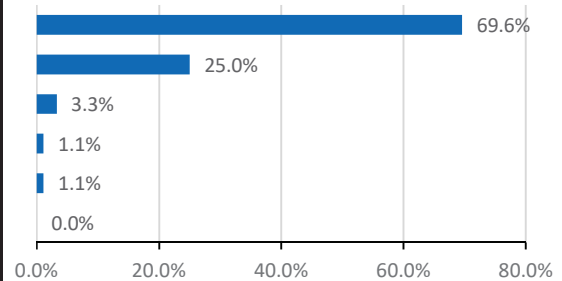
Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	60	65.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	23	25.0%
3	どちらとも言えない	5	5.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	2.2%
5	あてはまらない	2	2.2%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



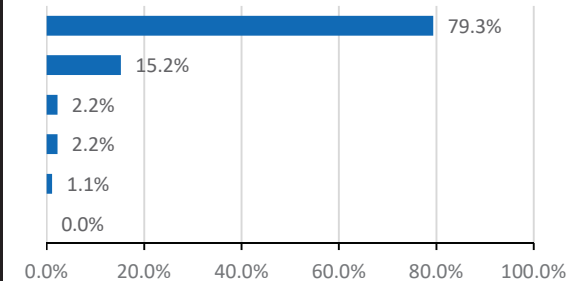
Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	64	69.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	23	25.0%
3	どちらとも言えない	3	3.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	1.1%
5	あてはまらない	1	1.1%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



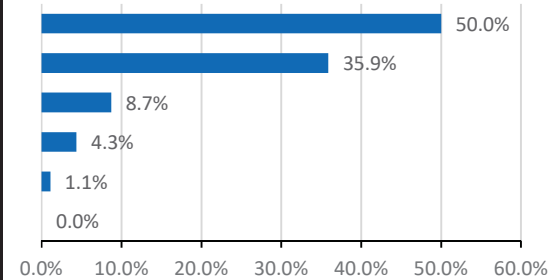
Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	73	79.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	14	15.2%
3	どちらとも言えない	2	2.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	2.2%
5	あてはまらない	1	1.1%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



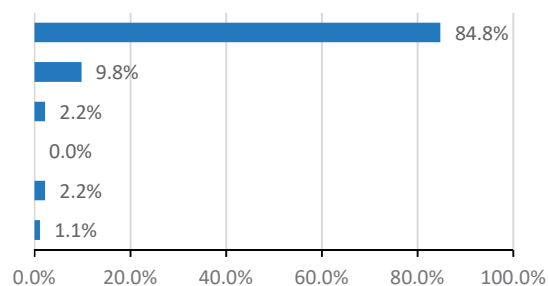
Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	46	50.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	33	35.9%
3	どちらとも言えない	8	8.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	4	4.3%
5	あてはまらない	1	1.1%
6	非該当	0	0.0%
	合計	92	



Q17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	78	84.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	9	9.8%
3	どちらとも言えない	2	2.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	2	2.2%
6	非該当	1	1.1%
	合計	92	



3. 2023 年度後期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応じて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応じて、授業担当教員、FD・SD 推進委員会からのメッセージをお届けいたします。

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ

日本中世史	谷口 雄太	2023/金4/通年
歴史（学）に興味関心を抱いてくれて、ありがとうございました。		

日本中世文化史	谷口 雄太	2023/金5/通年
歴史（学）にとっても興味関心を抱いてくれて、ありがとうございました。		

基礎演習（古典）Ⅱ	三浦 則子	2023/木1/後期
自由記述に多くの意見・感想を、ありがとうございます。古典の学びに関する前向きな意見・感想が多くて、とても嬉しかったです。		
発表回数が多くて大変な点もあったと思いますが、この経験を今後の演習の授業に活かしてください。また、皆さんと一緒に学べる機会を楽しみにしております。		

国語学講義（言語と社会）Ⅱ	木村 一	2023/月3/後期
今後にかاشていきたいと考える。		

イギリス史Ⅱ	米田 ローレンス正和	2023/水4/後期
指示なしだったのですが→ Q21.(教員より指示があった場合のみ回答)		
以下の回答があったため：		
「米田先生って呼ばれるのとローレンス先生って呼ばれるのと正和先生って呼ばれるのはどれが嬉しいですか??」		
回答させていただきます。↓		
「ローレンス先生」と「正和先生」は、ありえないかと思います。「ローレンス正和」で、一つの名前ですので・・・ イギリスの大学で博士号を取得しているため、「Dr Yoneta」と呼んでください。よろしければ！		

フランス芸術文化演習ⅡB	高橋 信良	2023/金3/後期
<p>【Q19の「仲のいい人だけで話さないように、最初に好きな演劇の話などをして友好関係を築く」というアイデアについて】</p> <p>この授業は全員参加で議論しながら進めてゆく授業ですから、とても良いアイデアだと思います。来年度は、いただいたアイデアにもとづいて最初の授業を行ってみます。ありがとうございました。</p>		

現代社会と生涯発達	堀口 康太	2023/水4/後期
<p>わかりやすいなど、ポジティブな意見を多くいただきありがとうございました。</p> <p>【Q19】に「課題をイメージしやすく」や「課題の範囲を明確に」といった改善意見をいただきました。生涯発達を物語にするという課題なので、幅が広がってしまう面があったので、次年度以降、課題の設定の仕方は「こういう観点からまとめてください」など、工夫をしようと思います。授業へのフィードバックありがとうございました。</p>		

教育課程論（中・高）	今井 福司	2023/月4/後期
<p>【Q19の「課題の中のクイズについて、次の授業で解説など少しでもして頂ける時間があると有り難い」との意見について】</p> <p>授業時間にも余裕がありましたので、正解とともに内容を復習する時間を次回以降はもう少し取るように注意したいと思います。ご指摘いただきありがとうございます。</p>		

② FD・SD 推進委員会からのメッセージ

「授業改善のための学生アンケート」にご参加下さった皆さん、本学での授業をよりよくしていくためのアイデアをお寄せ下さった皆さん、ご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

「授業改善のための学生アンケート」は、2020 年度にそれまでの紙のマークシート記入方式ではなく web 回答形式へと移行した際、回答率が 2 割弱にまで落ち込みました。FD・SD 推進委員会では、この状況ではアンケートが受講生の皆さんから多様な意見やアイデアをいただく機会となりえないのではないか、と反省し、試行錯誤し、現在に至ります。2023 年度は web 回答形式での回答率が 4 割程度まで回復し、また Q22 の「この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だ」に対する「はい」の回答が全回答の 99%を超えました。ご協力下さった多くの皆さんには、アンケート内容を適切と受けとめていただけたのかなと感じています。また、今回は全体から 3 件と少数でしたが、アンケート内容に関して貴重なご意見をお寄せ下さった皆さん、ありがとうございました。

皆さんが質問項目を補う必要があると感じたら、また、質問項目では拾いきれないアイデアをお持ちの方がいたら、「自由記述」欄に記入して下さい。長年授業を担当する教員でも、受講される皆さんからのご意見にハッとすることは常です。また、アンケート内容へのご意見もご遠慮なくお寄せ下さい。本学での授業は、担当教員や職員と受講される皆さんとで協働して創られ、改善され、発展していくものになります。「授業改善のための学生アンケート」が、そうした協働の場の一つとなるよう、FD・SD 推進委員会でも検討を継続していきたいと思っております。

「授業改善のための学生アンケート」2023 年度後期 顕彰授業について

2024 年 4 月 26 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、2023 年度は履修者数が概ね 25 名以下の授業についてアンケートを実施いたしました。

2023 年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等は次ページをご覧ください。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2023 年度後期

「韓国語（中級）B」丹羽 裕美 先生（文学部国語国文学科非常勤講師）

（通年月曜日 3 限）

「児童英語教材研究」森 真理子 先生（文学部英語英文学科非常勤講師）

（後期木曜日 3 限）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 7 項目（項目毎の平均点の合計/35 点満点）とする。
 - Q6 教員の説明はわかりやすかった。
 - Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
 - Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
 - Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
 - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
 - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
 - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰対象は各学期第 1 位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

以 上

「授業改善のための学生アンケート」2023 年度後期 顕彰授業における工夫

2023 年度後期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の 7 項目です。

- Q6 教員の説明はわかりやすかった。
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

< 顕彰授業 1 >

通年 月曜日 3 限 外国語科目

「韓国語（中級）B」丹羽 裕美 先生（文学部国語国文学科非常勤講師）

この度は思いがけなく、このような素晴らしい顕彰を賜り誠に光栄に思います。しかし、私はこれを、韓国語中級 B で共に学んだ学生にも送りたい気持ちでおります。このクラスの学生が素晴らしかった点は以下の 3 つです。

- ・ 授業を極力休まない、万が一休んでしまった場合には自ら学習し、分からないところを教師に質問し解決しようとする力
- ・ 韓国語でコミュニケーションできる力を身につけようと、授業中には声をだして発表や発言をする授業態度
- ・ ハングル能力検定試験に挑戦しようと積極的に学ぶ姿勢

このような学生たちと共に、私もその熱意に応えたいリスペクトの気持ちを持ちながら授業に臨んできました。教員としての経験がまだ浅い私自身、より良い授業ができないか試行錯誤しながらの毎日で、至らない点が多いと思っておりますが、この機会に授業の様子を振り返りたいと思います。

1. 授業の進め方

初級レベルで学習した内容を会話の中で活用したり、中級レベルの新しい単語・表現・文法を学習することで、韓国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上を目指すクラスです。初級クラスでは文法や表現を理解し、宿題では復習することを中心にするのに対し、中級クラスでは、授業中では口や耳を大いに用いて楽しい時間を作りたかったので、会話

文・練習問題などを予習してくるよう勧めました。幸い、前年度に私の「初級」を受講した学生だったので、初級で学んだ基礎の上に中級の表現を応用していくことがスムーズにできたように思います。学生からは「昨年学んだことを活かして更に勉強できた点良かった。」「韓国語で話すことが出来るようになり、韓国の方と連絡が取れるようになった。」「推しが話していることが理解できるようになってうれしい。」など感想を聞くことが出来ました。

2. 説明の仕方

韓国語は、日本語と同じ膠着語という言語体系のため、文における語が似ており、初めて学習する人にとっては理解しやすい言語です。しかし、似ているために難しい面もあります。例えば、日本語では「先輩に相談する」「役所で相談する」のように「相談する」は同じ語で用いますが、韓国語ではそれぞれ異なる語を用います。また、中級になると文法や発音で、不規則的なものが含まれてきます。そのような場合、覚えるだけでは面白味がないので、以前はAだったものが文字の消滅によってA'になったなど、通時的な現象の説明を交え、何故そうなるのか？を紐解くように説明するようにしています。時には、私自身の失敗談から「この場面ではBの表現を使うほうが良かったのにね。」など印象に残る説明を心掛けています。

3. テキストについて

身近に感じるテーマや、韓国の生活文化を学べる会話文を取り入れたテキストを用いています。また、韓国で流行っている歌や、韓国映画の鑑賞なども取り入れています。映画を見て、聞き取れた言葉をカタカナでもよいので書かせ、挙げてみることで、日本と韓国の違いや共通点などの気づきがあったり、以前よりも韓国語が聞き取れるようになっていることを実感することが出来て、学習へのモチベーションが高まっていくのを感じました。

4. 検定試験

11月に行われる韓国語の検定試験を紹介すると、全員がチャレンジしたいと意志を表示したため、試験勉強に必要な資料を提供したり、夏休みにも韓国語の学習をフォローできる体制を作りました。全員が目標の級に合格できたことは大きな成果であり、合格を目指して必要な語彙を覚えたため、その後、授業での作文や会話力の向上に繋がったと思います。

最後になりますが、日本と韓国は距離的に非常に近い国でありながら、長らく「近くて遠い国」と言われてきました。しかし、これからの日韓の未来を築いていくには、互いの「ことば」を学び、相手のことばに耳を傾け、それを理解しようという「心」が通ってこそ、その教育の意義となるでしょう。



< 顕彰授業 2 >

後期 木曜日 3 限 英語英文学科専門科目

「児童英語教材研究」森 真理子 先生（文学部英語英文学科非常勤講師）

「児童英語教材研究」で常に念頭においてほしいポイントとして、以下の三つがあります。

- ①「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のうち、まず育てたいのは「聞く」力。
- ②子どもの特性に適した教材・指導法。
- ③母語が英語でなくても英語が話せる先生は、母語が英語でない子ども達のモデルとして、楽しく英語を使う姿を常に見せること。先生自らが教材であることを意識すること。

これらを実現するために、

- ・先生の説明はわかりやすい英語で、なるべく短く、顔の表情・ジェスチャー・絵などを用い、声ははっきり大きく、「聞かせる」ことを意識して何度も繰り返し聞かせる（Q6）
- ・伸ばしたい技能に適した「教材」（Q8）
- ・子ども達が目的を意識できるような「教材」（Q13）
- ・子ども達が自ら取り組めるようなレベルの「教材」（Q14）
- ・子ども達が「楽しいからもっとやりたい」と思うような「教材」（Q15）
- ・子ども達が達成感を感じられるような「教材」（Q16）

等々に留意して各自「教材」を作り、模擬授業をし、お互いに意見を出し合い学び合います。

今回の学生アンケートの項目は、図らずも授業で学生に求めていることであり、また学生のモデルである私の授業に求められることでもあります。私の授業を評価することで、学生が再度「授業・教材の作り方」を考察してくれたら嬉しく思います。

【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の7項目です。

- Q6 教員の説明はわかりやすかった。
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。